



令和7年度みどり市景観講演会

『豊かな『人の景』をデザインする～人中心の公共空間デザイン・マネジメント～』

みどり市 都市建設部 都市計画課

みどり市では、令和3年度に景観計画を策定し、本市における良好な景観資源を維持、活用し、新たな魅力の創出に取り組んでおります。その一環として多くの皆様に景観まちづくりについて関心を持っていただくため、「みどり市景観講演会」を開催しております。

今年度は、本市で空き家、空き店舗による景観阻害が問題となっていることから、都市デザイン分野に精通し、まちなかに魅力的な住環境を創出している国土館大学工学部准教授の西村亮彦さんを講師に迎え、令和8年3月11日(水)にながめ余興場にてご講演いただきました。当日は約60人の方に足を運んでいただきました。

西村さんが研究されている公共デザインは、建物単体ではなく、街路、広場、公共空間を含む「まちの骨格」をデザインする学問であり、住環境を良好に保ち、にぎわいを創出するための基盤となるものです。西村さんの研究活動の一つである「出張DIY広場」はソトノバアワード2020部門賞を受賞されています。また、滞留空間が不足している浅草雷門通りで、車道の一部を歩行者のための空間に転用し、まちを訪れる人たちの憩いの場としてDIYを行った「浅草雷門通りパーカード」は「グッドデザイン賞2024」を受賞されています。

講演会では、まず市から、みどり市景観計画について説明を行いました。市の発表後、「豊かな『人の景』をデザインする～人中心の公共空間デザイン・マネジメント～」というテーマで、道路整備のデザインと運営管理によってまちなみの風景が変化する仕組みをメキシコでの経験や研究活動での事例を交えてご講演いただきました。なかでも、ウォークブルなまちとは、「まち全体が広場のよう」であり、「誰がどのような動きをしているのか、まちの使われ方をイメージすることが大切である」というお話

が印象的でした。道路の常識を覆す実践力とまちの「面白さ」を生むアプローチによって、人から生み出される景観と歩車共存の新しい公共空間のアイデアを学ぶことができました。西村さんの多くの活動の中で共通しているのは、トライ&エラーを繰り返し、様々なアクションを実践する探究心を大切にしていることです。都市の面白さやわくわくするものとは何かについて分析し、人、空間、消費活動を通して、歩きたくなる道路空間を演出しています。本講演会を通して住民、事業者、行政が連携して積極的に施策に参加する姿勢を学ぶことができ、みどり市の今後の景観まちづくりにもつながりのある大変興味深い講演でした。



会場の様子



講師：西村 亮彦氏



質疑応答

